

株式会社マイネット御中

page 1/2

成長シナリオ次第で、株主価値は1,032億円。バリューギャップは917億円

貴社を投下資本、超過利潤価値、成長価値などに分解する超過利潤法によって分析した。業績や将来見通しなどをベースに試算した結果、株主価値は1,032億円と推計することが可能である。5年程度で売上高が523億円、営業利益が-41億円、10年程度で売上高が2,558億円、営業利益が230億円、投下資本の売上高比が現在の28.0%で一定推移となる前提である。株主価値と時価総額のギャップは917億円であり（時価総額の799%）、期待形成によってはアップサイドあり。

①株主資本 36億円

- 直前四半期末の投下資本は32.2億円、投下資本/今期売上高の比はⒶ28.0%と推計。有利子負債等を差し引いて非事業資産を加えた株主資本は35.8億円と推計。[株主資本 = 投下資本-有利子負債等 + 非事業資産]

②超過利潤価値 -89億円

- 今期の税引後営業利益（NOPAT）は約-3.8億円、NOPATマージン（NOPAT÷売上高）はⒷ-3.3%と推計。Ⓑ÷Ⓐで算出される投下資本利益率（ROIC）は-11.8%となる。
- 投下資本に対し投資家が要求する最低限のリターン、加重平均資本コスト（WACC）について、JPRは株価、財務戦略、事業リスク等から6.7%と推計。1円の投下資本から創出する企業価値の割合を示すROIC/WACCは-1.8倍となる。
- これをベースに今期の超過利潤を推計すると-6.0億円と推計される。今期のEVAの永久価値（超過利潤価値）は超過利潤÷WACCで計算され、-89億円と推計される。

③成長価値 1,085億円

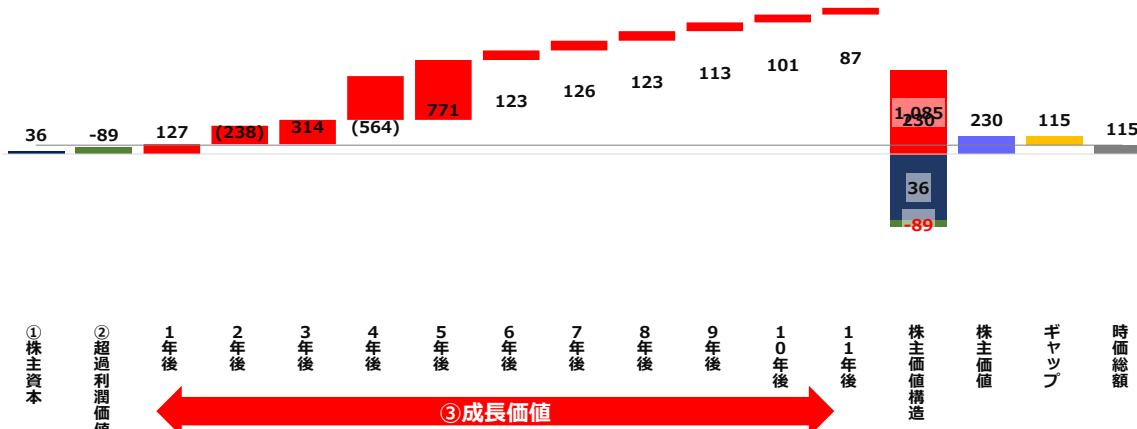
- 5年後の売上高が523億円、営業利益が-41億円となる前提等で、成長価値は1,085億円と推計。

うち非事業資産 29億円

- 月商1.5か月を超えた現預金など、事業に投下した資本以外の資産は29億円と推計。

超過利潤法による株主価値構造とバリューギャップ分析

[単位：億円]



Copyright © J-Phoenix Research Inc. All rights reserved.

[会社開示資料等を利用して作成、2018年07月17日時点]

本資料には予想・見通し・目標・計画等の将来に関する事項が含まれております。これらは当社が本資料作成時点において入手した情報に基づき、当該時点における予測等を基礎として作成されております。これらの事項には一定の前提・仮定を採用しており、一定の前提・仮定は当社の主観的な予想を含むものも含まれております。また、様々なリスク及び不確実性により、将来において不正確である事が判明し、あるいは将来においてこれらの予想は実現しない事があります。その為、本資料に掲載されている予想・見通し・目標・計画等の将来に関する事項について、当社はそれらの情報を最新のものに随時更新するという義務も方針も有しておりません。同時にその内容の正確性、完全性、公平性及び確実性を保証するものではありません。従いまして、本資料を利用した結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではございません。問い合わせ先：<http://j-phoenix.com/contact.html>

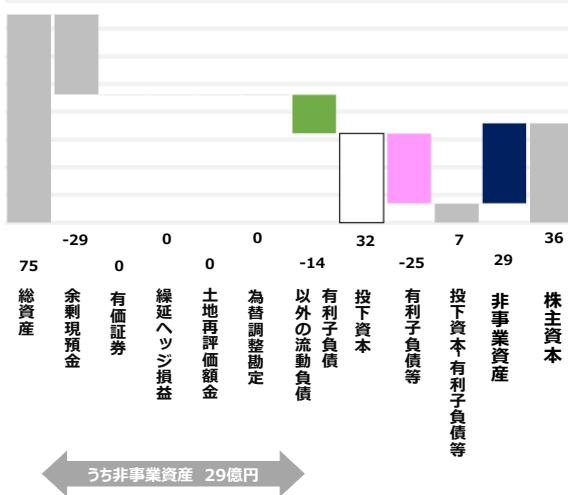
株式会社マイネット御中

page 2/2

①投下資本・株主資本

2018年12月期会社計画の売上高1115億円に対する投下資本の割合
運転資本 15.9% 固定資産 12.1%

〔単位：億円〕

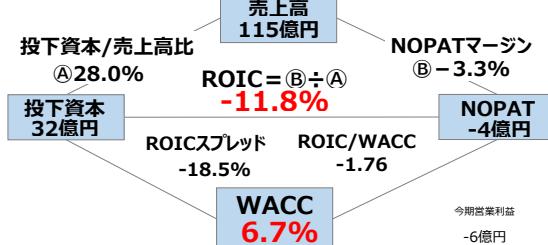


②超過利潤価値

〔億円〕



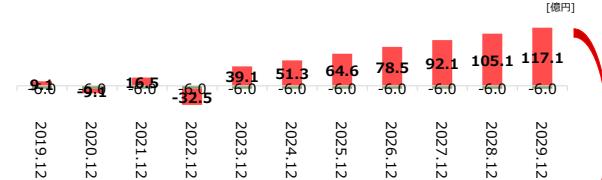
2018年12月期会社計画の超過利潤のドライバ



③成長価値

過去の成長率や業績動向等からJPRが前提設定

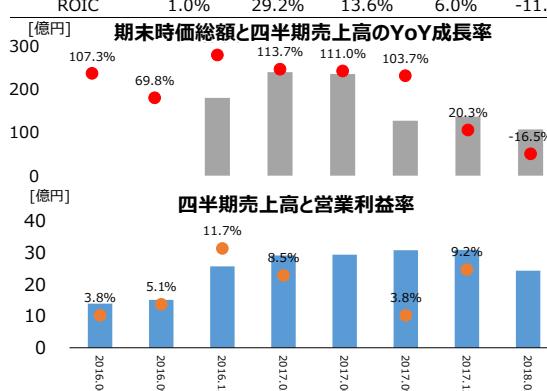
年度	【億円】				JPR予測1年後
	2019.12	2020.12	2021.12	2022.12	
売上高	168	245	358	523	2,558
前年比成長率	46.0%	46.0%	46.0%	46.0%	12.1%
営業利益	9.1	-15.1	25.0	-41.4	230.2
営業利益率	5.4%	-6.2%	7.0%	-7.9%	9.0%
NOPAT	6.3	-10.4	17.3	-28.7	159.2
NOPATマージン	3.8%	-4.3%	4.8%	-5.5%	6.2%
投下資本/売上高	28.0%	28.0%	28.0%	28.0%	28.0%
ROIC	13.4%	-15.2%	17.3%	-19.6%	22.2%
実効税率	30.9%	30.9%	30.9%	30.9%	30.9%
WACC	6.7%	6.7%	6.7%	6.7%	6.7%



将来のEVAの改善	現状のEVA
将来のEVAの改善額の現在価値 = 成長価値 1,085億円	

ご参考情報

過去の業績（今期は会社計画）						今期計画
	2014.12	2015.12	2016.12	2017.12	2018.12	
売上高	10	30	68	120	115	
成長率	24.1%	198.5%	129.5%	75.8%	-3.8%	
営業利益	0.0	1.5	5.0	6.1	-5.5	
営業利益率	0.2%	4.9%	7.4%	5.1%	-4.8%	
NOPATマージン	0.1%	3.4%	5.1%	3.5%	-3.3%	
投下資本/売上高	14.2%	11.6%	37.3%	58.8%	28.0%	



「会社開示資料等を利用して作成、2018年07月17日時点」

[1]全投下資本は資本市場から調達して事業に利用されている資産として以下の算式で計算 投下資本 = 総資産 - 売上高の10%を上回る現預金 - 短期有価証券 - 投資有価証券-繰り延べキャッシュ - 有価証券評価差額金 - 為替換算勘定-土地再評価額金額 - 有利子負債以外の流動負債。[2]WACC(加重平均資本コスト) = 税引後支払利回りD/(E + D) + 株主資本コスト×E/(E+D) × 東証当時価額、Dは有利子負債残高、株主資本コスト=リスクフリーレート+リスクリプレミアム。B=東証の日次リターン（X）と責任株価日次リターン（Y）の一時回帰式の係数。 $\beta = [XY\text{の相関係数}] \times [\text{ボラティリティインデックス(VI)}]$ 。[VI] = [Yの標準偏差] / [Xの標準偏差]。一次回帰式の決定係数が0.3以上は、一次回帰式の係数を β とする。決定係数は0.3未満の場合、は、責任者による業界平均の無負債比率を推計した。リスクフリーレートは0.3%、リスクリプレミアムは%とした。日次リターンは2017年8月までの5年間。

Copyright © J-Phoenix Research Inc. All rights reserved.

本資料は予想・見込みの将来に関する事項が含まれております。これらは当社が本資料作成時点において入手した情報に基づく、当該時点における予測値を基準として作成されております。これらの事項は一連の前段と後続を用いており、一定の前段と後続は当社の主観的な予想を含むものとされ、各自で含まれております。また、様々なリスクや不確実性により、将来において不確定な事項である。あらかじめおいてこれらの予想は実現しない事があります。そのうえ、本資料に記載されている予想・見込み・目標・計画等の将来に関する見方にについて、当社はそれらの情報を最新のものに随時更新するという義務も負わせて頂いております。同時にその内容の正確性、完全性、公平性及び確実性を保証するものではありません。従いまして、本資料を利用した結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。問い合わせ先：<http://l-phoenix.com/contact.html>